

祭神 日本武尊

今按總國風土記に所祭市杵島比咩とあるは信がたし駿河國志に燒津草薙等神社は式内社にて何れも日本武尊の事跡にして御同體にましますと云ひ社傳にも同じく日本書紀景行天皇四十年日本武尊初到駿河云々以燧出火向燒而得免云々故其處曰燒津とある故事にも由あれば之に従ふ

祭日 六月十四日十五日
社格 郷社(明細帳縣社とあり)
所在 燒津村(志太郡燒津町大字燒津縣社燒津神社)

○有度郡三座 並小

伊何麻神社

祭神

今按社傳祭神應神天皇と云るは是も偽風土記の誤を襲へるものにて信がたし別神なるべし

祭日 九月十五日
社格 (明細帳に寺家村なし中田村字宮地大里村伊河麻神社式内とあり 郷社)
所在 寺家村(安倍郡大里村大字中田郷社伊河麻神社)

今按一説に上島村井鎌明神と云社是なりと云り井鎌明神と云ならんには此に山ありけなれど未だ明證を得ざれば附て考に備ふ

池田神社

祭神

祭日 九月九日

社格 村社

所在 池田村六(安倍郡豊田村大字池田)

草薙神社

祭神 日本武尊

祭日 九月二十日

社格 郷社(明細帳縣社とあり)

所在 草薙村草薙山(安倍郡有度村大字草薙)

○安倍郡七座 並小

足坏神社 稱白巖大明神

祭神

今按社傳祭神蛭兒命とあるは偽風土記の説によりしなるべく其説は足坏と云に此神の三年まで足た、すと云故事を思ひよせて云出たるものと思はるれば信がたし

祭日 九月二十七日

社格 郷社

所在 足久保村和良(安倍郡美和村大字足久保)

神部神社

祭神 大己貴命

今按社傳祭神大己貴命相殿彦々火瓊々杵尊栲幡萬幡姫命とあれと萬幡姫は志豆機山の名より云出で此姫神の御名によりて瓊々杵尊をも祭れるにて實は大己貴命主神なるべし故今一座を記せり

祭日 三月三日

社格 縣社(明治十一年五月國幣社加列)

所在 靜岡志豆機山(靜岡市宮ヶ崎町國幣小社神部神社)

今按一説に當社の神明社なりとも又藤原郡河合村なる神明社なりとも云と詳かならず今は注進狀に従へり

建總神社 稱馬鳴大明神

祭神 天照大御神

今按偽風土記に建總神社所祭天照大神也日本武尊之祭之所也とある天照大神と云るは杜撰にて建總は疑らくは日本武尊の爲に置れし武部の事をあやまりて日本武尊の祭りし神と云るものならん然らば祭神日本武尊にはあらず敷姑附て考に備ふ

祭日 四月三日九月十七日

社格 郷社

所在 建總寺境内(安倍郡服織村大字建總)

今按古社地は隣村羽鳥村の西南田疇に明神森と云あり又

駿河國 安倍郡

中津神社 稱住吉明神

祭神 底筒之男神

祭日

社格

所在

鳥居跡の巨石もあり大鳥居と云字も存れりと云りされば古へは羽鳥村の邊をかけて建總村と云りしにやあらん姑附て考に備ふ

今按府城西武家明屋舖跡田疇に住吉祠あり是地川邊郷の内にて中津の田地ならん西近きわたりに字中河或は中河原などの唱あり上古は安倍川東に流れ西に薬科川流れて其溝合の地なれば中津とは稱しならんされば此住吉社式社なるべしと云るは偽風土記に祭神住吉神とあるより考へたる説にて中河中河原を中津とせるも如何あらん據がたかるべし又近世安倍川中に舟山と云小丘あり中津神社の舊跡ならんと云へど此地は向敷地村にて水荒に押切られ中洲となれる地にして元辨天堂ありし所なるを川中にあるより中津と附會したるものなるべければ取がたし

小梳神社

祭神 速須佐之男神

所在 湍名田比賣命